

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マダラ

学名 *Gadus macrocephalus*

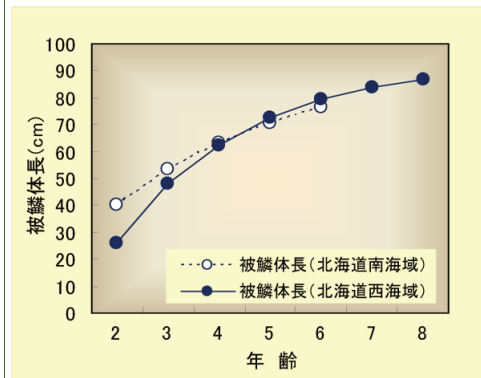
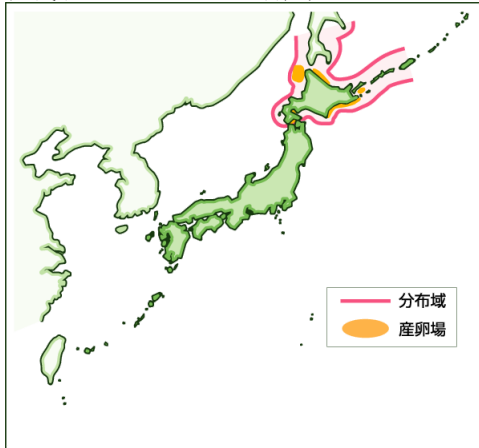
系群名 北海道

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳(北海道南海域)
産卵期・産卵場: 冬季(12～3月)、分布域全体
索餌期・索餌場: 不明
食性: 幼稚魚期は主にカイアシ類、底生生活に入ってからには主に魚類、甲殻類、頭足類、貝類
捕食者: 海獣類

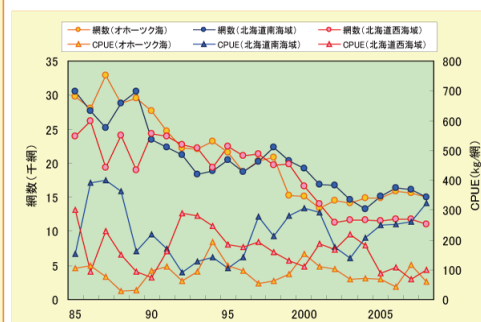
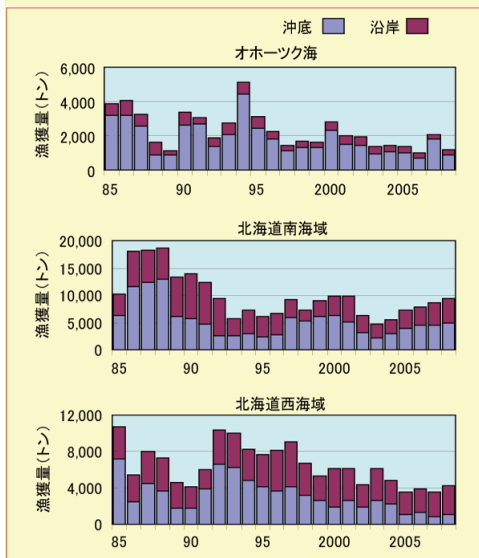
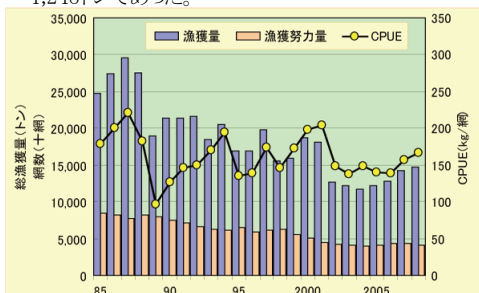


漁業の特徴

北海道周辺のマダラは、沖底に加え、刺網、延縄などの沿岸漁業によって漁獲されている。漁獲はほぼ周年あるが、冬季～春季に多い。沖底の漁獲量が多いのは、オホーツク海では北見大和堆周辺、北海道南海域では十勝～釧路沖、北海道西海域では天売・焼尻島周辺や稚内北西海域である。沿岸漁業の漁獲量が多いのは、オホーツク海では網走市、北海道南海域では函館市恵山町、えりも町および釧路市、北海道西海域では礼文町である。

漁獲の動向

全海域を合わせた漁獲量は、1980年代後半以降減少傾向にある。その中で2004年以降はわずかに増加しており、2008年の漁獲量は14,754トンであった。2008年の漁獲量を海域別にみると、オホーツク海では2007年より減少して1,174トン、北海道南海域では2003年以降増加しており9,333トン、北海道西海域では1992年以降減少傾向にあり4,248トンであった。

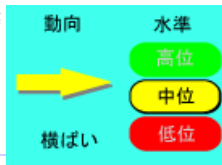


資源評価法

全体の漁獲量の5～7割を占める沖底のCPUEに基づいて資源評価を行った。なお、沿岸漁業の漁獲努力量に関しては情報が得られておらず、沿岸漁業の漁獲量から資源状態を判断することは困難である。

資源状態

過去24年間(1985～2008年)におけるCPUEの平均値(161kg／網)を50とし、35未満を低位、35～65未満を中位、65以上を高位とした場合、2008年のCPUE(166kg／網)は52であるため、資源全体としての水準は中位、最近5年間のCPUEの変化から動向は横ばいと判断した。また、過去24年間におけるCPUEの変動は比較的小さく、1980年代後半以降資源量は安定して推移していると考えられる。なお、沖底のCPUEに基づいて判断した海域別の水準と動向は、オホーツク海の資源が低位で横ばい、北海道南海域の資源が高位で増加、北海道西海域の資源が低位で減少であった。



管理方策

沖底のCPUEに基づいて判断した資源状態は、中位で横ばいであった。また、過去24年間におけるCPUEの変動は比較的小さく、資源量は1980年代後半以降安定して推移していると考えられる。したがって、現在の資源水準を維持することを管理目標とし、沖底のCPUEの動向に合わせた漁獲を行うことが妥当と判断した。直近5年間のCPUEの動向から、ABClimitは2004年から2008年の平均漁獲量に1.14を乗じて算出し、ABCtargetはさらに0.8を乗じた漁獲量とした。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	15千トン	1.14Cave5-yr	—	—
ABCtarget	12千トン	0.8・1.14Cave5-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 沖底のCPUEに基づいて資源状態を判断
- 資源全体としての水準および動向は、中位で横ばい

管理方策のまとめ

- 過去24年間における沖底のCPUEの変動は小さく、資源量は1980年代後半以降安定して推移していると考えられる
- 現在の資源水準を維持することを管理目標とし、資源の動向に合わせた漁獲を行うことが妥当と判断した

平成21年10月16日更新

資源評価は毎年更新されます。